

# 羅針盤



社会科部 情報活用委員会

## 社会科授業力・教師力アップセミナーから学んだこと

社会科部長 中根 俊忠

愛知県の無形民俗文化財第1号（昭和29年3月12日）に指定された「瀧山寺鬼祭り」。

天下の奇祭。三河路に春をつげる祭りとも言われる。国重要文化財の本堂を舞台にして、運慶作といわれる祖父・祖母・孫の鬼面を被った鬼が手引きに伴われ登場し、2.5メートルの大松明を持った若い衆が鬼を追う。建物全体が火に包まれる勇壮な祭りである。私は子どもの頃、父親に連れられて燃え上がる松明の火の粉を浴び、豊作と無病息災を祈ったことを思い出す。

温暖化の進行する今日では、春を待ちわびるといっても薄らいでしまったように思う。半世紀前には、「自然」も「生きるということ」も、やはり厳しかった。常磐の道路は舗装されておらず、雨降りの後には、いくつもの水溜りができ、晴天の日には、山間地から切り出された杉や檜の大木を積んだトラックが大沼街道に砂埃を舞い上げ、目が開けられないほど真っ白になった。また、川沿いには紡績工場が建ち並び、瀧山寺下の水車ガラ紡工場跡には、壊れた水車が見られた。



源頼朝の祈願で始められた（伝）

さて、本年度の社会科授業力・教師力アップセミナー基礎編は、猛暑の中で瀧山寺周辺のフィールドワークを行い、80名を超える参加者があった。岡崎むかし館主任専門員の野本欽也先生と中央図書館企画班主任主査の天野幸枝先生による講義も、社会科の授業作りの貴重な示唆になった。印象に残ったのは、民俗学の見地からの資料の見方、学び方である。「今を見るためには、過去をひも解き、未来をひも解く子を育てることが大切です」の言葉が心に響いた。「瀧山寺の歴史と風土」の話の中で、「民俗には広がりがあり、普遍性があること」、「民俗は生き物である」という民俗文化財の捉えで調査することの重要性と、調査の視点を学ぶことができた。



源頼朝の等身大であり、御歯と御髪が仏身に納められた聖観音菩薩立像

社会科は、足でかせぎ、自分の目で見て、新たな発見、発掘を楽しめる教科である。オール電化された家も多くなった今日では、昔の住生活との違いを調べることは、昔の暮らしについて子どもに興味をもたせる有効な手段である。

身近な地域の歴史や風土を知り、子どもと共に考える授業作りをしていきたいものである。

今夏のセミナーで御協力をいただいた瀧山寺住職山田亮盛先生と、参加者に「聖観音菩薩立像」「梵天立像」「帝釈天立像」の写真を提供して下さった鈴木智彦氏の御好意に心より感謝を申し上げたい。

## 授業力・教師力アップセミナー「基礎編」報告

7月31日（木）、常磐地区においてセミナーを行いました。猛暑にもかかわらず参加者80名を上回る盛況ぶりでした。まず、瀧山寺を中心とするフィールドワークでは、岡崎むかし館の野本欽也先生に解説をいただきながら、萬松寺、瀧山寺三門・本堂・東照宮・宝物館、ガラ紡工場遺跡などを見学しました。午後からは、りぶら会議室において「瀧山寺の歴史と風土～修正会鬼祭を中心として～」と題して野本先生の講演をいただくと共に、補足関連資料の紹介をりぶら企画班主任主査の天野先生にいただきました。瀧山寺の縁起や鬼祭りの歴史と具体的内容、明治以降のガラ紡による地域の復興の様子などを詳しく学ぶことができ、有意義な1日となりました。（基礎研修委員会委員長 矢作北中 新美 聡）



瀧山寺本堂にてご住職のお話を聴く

## 第64次 教育研究愛知県集会報告

10月18日(土)、名古屋市の「ウインクあいち」にて、第64次教育研究愛知県集会が開かれました。社会科部からは、社会科教育小学校・中学校の各分科会と、環境問題と教育分科会に5名の先生が正会員として参加されました。活発な議論がなされる中で、「子どもの姿」とらえ、その変容から実践研究を分析する岡崎の教育実践が高い評価を受けました。その中から、2名の先生方に報告をいただきました。中根良輔先生は全国教研にオブザーバーとして選出され、今後参加される予定です。

- 参加された正会員の先生
- 社会科教育 小学校  
山本磨生先生(矢作中)  
権田康成先生(六ツ美南部小)
  - 社会科教育 中学校  
杉山 彩先生(岩津中)  
中根良輔先生(翔南中)
  - 環境問題と教育  
日置正敏先生(翔南中)

社会科教育小学校分科会では、地域学習3本、国土・産業学習8本、歴史・公民学習8本の計19本のレポートをもとに、「発達段階に応じた、社会参画する力の育成」を柱とし、活発な質疑・討論が行われました。社会事象に対する子どもの学習意欲を高め、切実感をもって学習させるための手だてとして「子どもの意識が連続するような単元構想にすること」「子どもが疑問を抱くような資料を提示すること」「社会の仕組みやはたらきにつながる問いを抱く場面をつくること」など工夫を凝らした様々な実践が紹介されました。

討論では、「根拠をもとにした対話能力を育成するための言語活動のあり方」や「社会参画する力とは何か、参画のために必要な社会認識をどのように育てるか」について、議論が重ねられました。助言者の先生からは、社会参画するには、社会事象を確かに認識したうえで、社会事象を「自分事として理解する力」、「解決の手だてを考える力」、「社会に関わる力」を育むことが大切であり、多様な価値判断につながるとご助言をいただきました。今回の経験を生かして、切実感をもって学習に取り組み、社会参画する力を育むことができる実践を目指していきたいと思います。(六ツ美南部小 権田康成)



社会科教育中学校分科会では、地理8本、歴史4本、公民7本の計19本のレポート発表が行われ、「社会に対する見方・考え方を深める学習指導のあり方」について質疑・討論が行われました。一つの課題を多面的、多角的に捉えられるよう、資料の充実や学習形態の工夫が提案され、効果的な資料の提示の仕方や、目的意識を明確にした課題追究が行われた実践の報告を聞き、勉強することができました。また、互いの実践での失敗談を交えて意見を出し合い、テーマに沿った改善の仕方考えることで、社会の見方・考え方についての議論を深めることができました。

助言者の先生からは、「教員が教材を多面的に見ることができているかが大切である」「異なった意見を取り入れるだけでなく、合意することが大切である」など、教材研究への姿勢や、話し合いの内容についてご指導をいただきました。今回の経験を今後の実践に生かしていきたいと思います。(翔南中 中根 良輔)



## 社会科研究作品展&発表会

今年度も社会科部と岡崎むかし館が協力して、10月4日(土)~14日(火)に岡崎市図書館交流プラザ(りぶら)で「社会科研究作品展」を行いました。

特別賞を受賞したみなさん

学年	テーマ	氏名	学校名
小3	東海大地震から身を守れ!!	岩瀬 士恩	奥殿小
小3	お田植えまつり衣装の100年	横山 和翼	六ツ美南部小
小4	使って汚れた水はどこへ?	川本 夏輝	三島小
小5	阿知和・真福寺・三蔵前・ハツ木の丘・天神町	古沢 萌乃	岩津小
中2	新聞記事で考える岡崎の人口	阿部 有彩	新香山中

今年度の社会科研究作品は、市全体では過去最多の2,851点が製作され、そのうち小中合わせて149点(過去最多)の代表作品が社会科主任の先生方の協力により寄せられました。集まった作品は研究作品委員会の先生方とりぶらの職員の方々によって、2階に展示されました。展示された児童生徒には、市教育委員会より賞状が贈られました。展示期間中は、熱心に作品に見入る大勢の親子連れや市民の皆さんの姿があり今年も大変好評を博しました。

期間中の10月11日(土)には、今年度で3回目となる「研究作品発表会」が行われました。優秀作品に選出された5名が、りぶらにて研究の成果を発表し、プレゼンテーションソフトを使った発表や実物を提示しながらの発表などがあり、どの発表もわかりやすく興味深いものになっていました。

# ちよつと寄り道

## 孝婦とら（生平小学区）

生平小学校の中庭には、右足に下駄、左足に草履を履き、たくさんの薪を背負った女性の像が立っている。彼女は名を虎といい、学区では「孝婦とら」として広く知られている。

とらは、元禄3年(1690年)、現在の古部町の貧しい家庭で生まれ育った。とらが十代のある日、病で床に伏した父親から「今日は天気が良いから草履で出かけなさい」、母からは「天気が悪くなるから下駄で行きなさい」と言われ、どちらの言葉も無下にできないとらは、下駄と草履を片方ずつ履いて薪拾いに出かけた。そして岡崎宿まで行って薪を売り、そこで得た賃金を手に知立まで行って父親の薬を買った。彼女たちの生活は苦しく、とらはこの道のりを二日に一度は歩いて父母を養った。十余年の後、ついに彼女の親孝行ぶりは岡崎藩主水野忠之に認められ、多くの褒美を得たという。

今年4月、孝婦とらの美談は某テレビ番組でも取り上げられた。やしる優、松本明子、野村将希、ザブングル、コカドケンタロウら豪華出演陣による再現ドラマに胸を熱くした方も多いのではないだろうか。

(生平小 小川 恭平)



生平小にある孝婦とら像

### ～小学校5年生分科会～

根石小学校で実践した5年生「情報化社会とわたしたちの生活」について報告しました。

普段何気なく見ているテレビの裏側である、情報を伝える側の責任や苦勞を探るため、岡崎のケーブルテレビ「ミクス」の協力を得ながら、番組作成を行いました。

子どもたちは番組作成の中で、ミクスの方から番組作成への思いを聞いたり、地域への取材を重ねたりするうちに、「岡崎の人に地域の良さを伝えたい」という願いをもちました。視聴者に分かりやすい番組作りのために、各グループで番組構成について話し合う「番組会議」の時間や、作成途中の番組を学級で見合い、話し合う場を多く設けました。単元の最後には、視聴者からの感想を募り、自分たちが伝えたいことが伝わったかどうかの検証を行いました。児童は「作ったわたしたちも根石の良さを再発見できて、根石は本当に良いところ、自慢のふるさとだなと思いました」と感想を残し、情報を発信する側の苦勞とともに、地域を大切に思う心の芽生えを感じることができました。

(矢作中 山本 磨生)



【発表者の杉山彩先生】

## 平成26年度 三教研報告

8月8日(金)、岡崎市民会館において三河教育研究会夏季研修会が開催されました。この中で、岡崎を代表して2名の先生が実践報告をされました。その内容をご紹介します。



【発表者の山本磨生先生】

### ～中学校2年生分科会～

本分科会で地理的分野「身近な地域の調査～岩津中学区開発最前線～」について実践を報告しました。本単元で生徒は、まず、新しく学区に大型スーパーができる要因と、そのことにより学区住民にどのような影響があるのか調査を行いました。そして、調査から最も影響があると考えた古くからある商店街に焦点を絞り、商店街が残るためにはどうすればよいのかについて考えました。

本単元を通して、生徒は、大型店進出は市北部地域の発展につながり、高齢者の方の買い物が便利になるというメリットと、渋滞・騒音・治安悪化・商店街の衰退というデメリットが存在していることを明らかにしました。また、岩津中学区の顔と考える商店街が将来も継続するためには、中学生の自分たちも積極的に利用する必要があると話し合いから結論づけました。

協議会では助言者の先生から「地域素材を取り上げ、学区の方々と関わることで学校では得られない気づきや生徒の考えが深まる」と助言していただきました。これからも、ぜひ活用していきたいと思えます。

(岩津中 杉山 彩)

# 研究発表会報告

## 美川中学校 〈6月20日(金)〉

本校では、「自らの思いを言葉にし、かかわり合いながら主体的に学び続ける生徒の育成」を研究主題に実践に取り組みました。

1年生地理「日本のすがた」の単元では、領域について学ぶなかで、未だに解決していない北方領土問題について調べ、「北方領土はこれからどうなっていくのだろうか」を課題に話し合う授業を公開しました。話し合いでは、歴史的な観点から日本が領有を主張しているが、ロシア人が生活をしている現実が浮き彫りになりました。お互いの言い分があるのですぐに解決するのは難しいが、話し合いを続けなければならない、と生徒たちは考えるようになりました。また、北方領土に対する関心が高まり、単元終了後に思いを作文にする生徒もいました。



3年生公民「少子高齢化について考えよう」の単元では、公民分野の学習の導入として、生徒が現在直面しており、将来必ず自分に関係してくる少子高齢化について、保育園や市役所、老人ホームなど、少子高齢化に関わる人々の思いや現状を取材しました。そこで得た知識をもとに、「ますます進む少子高齢化に対して今やるべきことは何だろう」を課題に話し合いました。話し合うなかで、様々な政策が考えられるが、どれを行うにしてもお金が必要になるので、それをどうするかが問題であること、多くの人が危機感をもつことが必要であることに意見が集約されました。この単元を通して、自分の身の回りで起こっている問題について、自分のこととして考えようとする思いが深まりました。(美川中 太田智宏)

## 葵中学校 〈10月22日(水)〉

本校の社会科部では、「多文化社会に通用する思考力・判断力・表現力を身に付けた生徒を育てる授業」というテーマで研究に取り組んでいます。

研究発表会では三つの授業を公開しました。3年生公民分野「人権の尊重と日本国憲法」の単元で「現在の日本は日本国憲法前文にある名誉ある地位を占めているだろうか」という授業。2年生歴史分野「欧米諸国の世界進出と日本の歩み」の単元で「困っている阿部正弘に意見し、その決定を評価しよう」という授業。1年生地理分野「アジア州」の単元で「タイではエビの養殖は続けるべきだろうか」という授業です。どの授業もICTを積極的に取り入れ、特に3年生の授業では、タブレットを用いて発表し合いました。自ら調べた資料や自らまとめた図表を、拡大・縮小することでわかりやすく発表することができました。それにより、生徒たちの学び合い・磨き合いが深まりました。(葵中 石川定次)



## 矢作南小学校 〈11月18日(火)〉

「子どもたちの対話力を育む学びの創造～対話を通して思考を深める授業づくり～」を研究主題として研究発表会を行いました。ユニバーサルデザインの考え(分かる化・見える化・言える化)を手だてに、すべての子どもたちに分かりやすい授業をめざし、対話活動(ペア対話・フリー対話・クラス対話)を通して、子どもたち一人一人が思考を深める授業づくりに取り組んできました。

6年生の社会科「長く続いた戦争と人々の暮らし」の単元で「戦争をさけることができなかった原因を探ろう」という授業を公開しました。単元計画の導入では、学校に隣接する忠魂碑(日中戦争で戦死された学区の人を祀った石碑)の見学や聞き取り調査を行いました。「矢作南学区でも戦争で亡くなった人がいたんだな。」「どうしてこんな悲惨な戦争が起きてしまったのだろうか」と子どもたちの追究意欲が高まってきました。また岡崎空襲を記録する会の香村克己先生をお招きして、岡崎空襲の体験談を語っていただきました。実物の焼夷弾を見たり、先生手作りの紙芝居を見たりして、当時の被害の様子を知り、子どもたちは、戦争に対して切実感をもって、一人調べや対話活動に意欲的に取り組んでいきました。



本時では、玉音放送の映像資料から「終戦を迎えた当時の国民は、何を考えただろうか?」という主発問をもとに、フリー対話やクラス対話を行っていきました。子どもたち同士で相互指名しながら、当時の人々の思いに迫っていきました。そして、二度と戦争が繰り返されないために、これからの世の中は、国民の意見を大切に、何事も話し合って決めていくことの必要性や、自分の国だけではなく、国と国とが互いに協力し合うことを大切にしていこうという思いをもつことができました。(矢作南小 尾山和昭)